

アンティオキアの教会

2022年9月11日

使徒の働き 11章19～30節
8章1～8節

序：最初の教会：エルサレム（ペンテコステの時、ユダヤ人キリスト者たち）
ステパノの殉教がきっかけで、信者たちは離散（伝道、巡回）8・4
サマリアのリバイバル（ピリポ／視察に来たのはペテロとヨハネ）
異邦人へ：エチオピア人の宦官の回心（ガザに下る荒野で by ピリポ）
イスラエル人サウロの回心（ダマスコ途上で 迫害者から一転 by 神
ローマ人の軍人コルネリウスと全家の救い（by ペテロ）

シリアのアンティオキアでの異邦人の集団としての回心 ⇒ 教会設立

I. 散らされた信者たち

エルサレム → サマリア
 ↘ フェニキア
 ↘ キプロス
 ↘ アンティオキア
 (シリア)

福音宣教地の拡大
ユダヤ人のみを対象とした伝道

II. アンティオキアでの伝道（実験、試験的）

- ①それまで、どの地域でもなかった
ギリシャ人（異邦人）への宣教
- ②キプロス、クレネから移ってきた
ユダヤ人キリスト者が伝道
既成概念にこだわらないで、福音に
生かされるマイノリティ
- ③主の恵みと力は差別なく、異邦人の
集団的回心をもたらした

III. バルナバの派遣

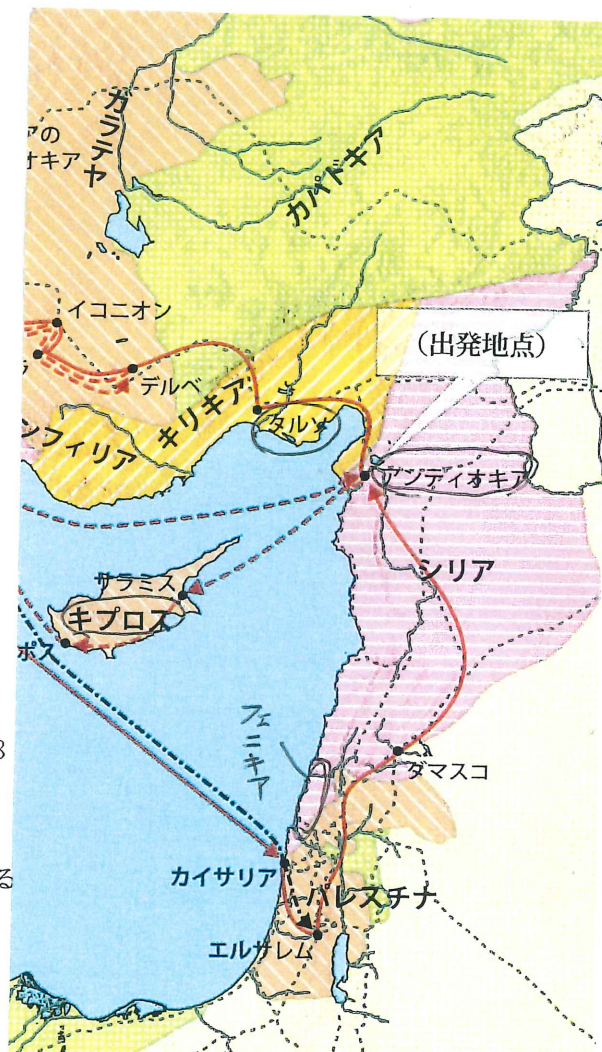
エルサレム教会から、
事情調査・確認のため

なぜバルナバを派遣したか

- ①キプロス出身のレビ人 5・36
- ②名：「慰めの子」
サウロの身元保証人となる 9・26～28
エルサレムの使徒たちとの仲介

バルナバはこの務めにふさわしい

- ①異邦人への偏見・抵抗がなく公平
異邦人信者の集団＝神の恵みととらえる
- ②牧者の心をもって、勧め励ました
●律法の要求を強制しない
●神の恵みによる新生を確信して
いつも主にとどまるよう激励
- ③信仰者として立派な人物（人格）
聖霊と信仰に満ちている人 cf. ステパノ
- ④さらに大勢が主に導かれた
イエス＝主と信じ告白、それにふさわしいきよい生活



IV. アンティオキア教会の飛躍的發展

最初の異邦人教会 ⇒ 異邦人伝道の拠点（パウロほか宣教者派遣、支援）

バルナバの存在と働きがもたらした影響

- ①彼の使命と実践は信者を慰め、奮い立たせた
- ②さらに信者が増加
- ③伝道と教育の協力者となるサウロをタルソへ捜しに行き、連れて来た
- ④1年間伝道と弟子造り（信徒を霊的に養育する）
- ⑤信者（弟子）たちはキリスト者（クリスチャン）と呼ばれるようになった
社会の中で際立つ存在
「キリストの輩」というニックネーム（by アンティオキア在住の異教徒）
絶えず、繰り返し、口を開けば「キリスト、キリスト」
生活態度も、異教徒たちとは明白に異なっていた

V. 信仰者たち・教会間の交流

- ①エルサレム教会とアンティオキア教会の信仰的一致が確認・承認されていた
- ②預言者たち（神のことば、御心を語り告げる、宣言する by 聖霊）の来訪
アガポが御霊によって預言＝世界規模の飢饉
クラウディウス帝の治世に成就
真の預言かどうかは、実現したかどうかで判定できる
- ③アンティオキア教会が発展と成熟に向かう
 - アガポの預言を受け止めた
 - 母教会のエルサレム教会のために、義援金、支援物資を送る
各々の聖徒の信仰と力に応じて
自発的に、自由に
 - 信仰の一致 ⇒ 金銭や物資による交流
 - 正規の教会活動として承認
∴ バルナバとサウロに託して、エルサレムの長老たちに送った

VI. 適用

- (1)伝道、福音宣教の結果は教会の形成
- (2)伝統は重んじつつも、既製概念にとらわれず、新しい着眼、発想が大事
それが、少数派であっても、大きな影響、結果をもたらす
- (3)教会の働きや任務には、賜物と召命に応じて適材適所がある（仲介者バルナバ）
一般社会での人事も同じ
- (4)何に価値観を置くか、どのようにものを見るかが、生活・実践の決め手
聖霊と信仰に満ちている聖徒たちが教会の発展、成熟の基
- (5)口は心にあることを話す
イエス・キリストは、私の関心事、話題の中心であるか
クリスチャン（キリスト者）と周囲の人たちに覚えられているか？
- (6)信仰の一致のある他の教会や聖徒の交わり・助け合いが、霊的、物質的に
なされているか？ 自由と自発性をもって
- (7)教会の活動としてどのようなものを承認し、どのように実行していくか？
例：バザー？？